

中国人日本語学習者における 複合動詞の習得

—文産出に見られる誤用
およびフォローアップ調査をもとに

金 蘭

◆要旨

本稿では日本語教育の観点から複合動詞の5つの新しい分類を提案し、その枠組みに基づいて中国人日本語学習者の複合動詞の習得状況について考察した。まず「複合動詞の前項と後項について各々の意味変化の度合いが大きければ大きいほど学習者の習得はそれに応じて難しくなる」という仮説を立て、上級レベルの学習者30名を対象に複合動詞に関する意識調査、文産出テスト、フォローアップ調査を実施し仮説を検証した。また、学習者が産出した文、フォローアップ調査をもとに誤用分析を行うことにより、学習者にとって習得しにくい複合動詞はどのようなものなのか、具体的な習得状況はどのようなものか、どのような誤用が見られるかを明らかにした。

◆キーワード

複合動詞、習得、文産出、
フォローアップ調査、誤用

◆ABSTRACT

In this paper, the author proposed five new classifications of compound verb from the viewpoint of Japanese education. Based on these classifications, the author studied the acquisition situations of compound verbs in Chinese students learning Japanese. In the experiments, awareness survey, sentence production test, and follow-up survey were conducted with 30 high-level learners to test the hypothesis, which predicts that a large difference between the two component verbs will make the acquisition difficult. The results of error analysis revealed several difficult compound verbs and their acquisition situations.

◆KEY WORDS

Compound Verb, Acquisition Situation,
Sentence Production, Follow-up Survey, Misuse

A Study on the Acquisition Situations
of Compound Verbs in Chinese
Students Learning Japanese
Based on the error analysis for misuse
in sentence production

LAN JIN

1 はじめに

日本語教育においては、話し言葉中心の初級段階から書き言葉が多くなる中級以降へ進むにつれて、読解文、新聞、作文などで学習者の触れる複合動詞は多くなる。実際に中上級レベルの中国人日本語学習者を対象に行った筆者の調査では、複合動詞の難易度について「複合動詞は難しい」と回答した学習者が全体の80%を超えることが明らかになった。また、自由記述では、「意味を推測する時は、その難しさを感じます」、「意味は前の動詞と後ろの動詞の意味を合わせて推測する」、「複合動詞をもっと勉強する必要がある」などの回答があった。

近年、日本語教育では、語彙習得の視点から学習者の複合動詞の習得を考察する研究がなされてきた。しかし、今までの先行研究では、具体的に学習者が習得しにくい複合動詞にどのような特徴があるかについてはまだ明らかになっていない。

以上を踏まえ、本稿では中国語を母語とする学習者にとって習得しにくい複合動詞はどのようなもので、複合動詞の習得状況は具体的にどのようなものか、どのような誤用が見られるのかを明らかにすることを考察の目標とする。

2 調査内容および手順

2.1 調査目的および枠組み

本稿の調査課題は

- ①学習者にとって習得しにくい複合動詞はどのようなものなのか。
- ②習得上どのような誤用が見られるのか。

である。まず日本語教育への応用を視野に入れた姫野（1999）の分類法、更に語義結合の度合いに注目した森田（1994）の分類方法を参考に新たな分類の枠組みを提案する（表1）。本稿ではこの分類を調査データの抽出および仮説の枠組みとし、データを分析する。

表1 複合動詞の新しい分類

タイプ①	前項動詞あるいは後項動詞が単純動詞として使われる際の意味と変化がない複合動詞	例) 飛び立つ 読み始める
タイプ②	後項動詞が単純動詞として使われる際の意味から文法的な意味に変化した複合動詞	例) 降り出す 読み切る
タイプ③	前項動詞または後項動詞が単純動詞として使われる際の意味から抽象的な意味に変化した複合動詞	例) 踏み切る 結び付く
タイプ④	後項動詞が単純動詞として使われないもので、接辞化している複合動詞	例) 眠り込む 乗り込む
タイプ⑤	単純動詞として使われる際の意味から変化し、前項、後項ともに元の意味の手がかりがなく、慣用句的な意味を持っている複合動詞	例) 落ち着く 取り成す

表1に見るように、タイプ①からタイプ⑤まで前項動詞および後項動詞各々の意味の変化により5つタイプに分類している。タイプ①の場合、「読み始める」のように前項動詞「読む」と後項動詞「始める」は複合される際、意味の変化がない。例えば、複合動詞「読み始める」の意味は「読み始める＝読む＋始める」となる。タイプ②の場合、タイプ①のように「前項動詞＋後項動詞＝複合動詞全体の意味」にはならない。例えば、「読み切る」の場合、後項動詞「切る」が本義から意味の変化が生じ、学習者にとってタイプ①より習得が難しいと考えられる。タイプ③の場合は前項動詞または後項動詞が単純動詞として使われる際の意味から抽象的な意味に変化したものである。タイプ④の場合は「眠り込む」、「乗り込む」のように後項動詞が単純動詞として使われないもので、接辞化している複合動詞である。タイプ⑤の場合は単純動詞として使われる際の意味から変化し、前項、後項ともに元の意味の手がかりがなく、慣用句的な意味を持っている複合動詞であり、これらの複合動詞の前項動詞および後項動詞は元の意味から完全に変化している。そのため、複合動詞全体の意味がたどることができず、慣用句的な意味を持っている。複合動詞をそれを構成する前項、後項の独立性、前項と後項の意味に着目した寺村（1984）の四分類（「自立語V＋自立語V」、「自立語V＋付属語v」、「付属語v＋自立語V」、「付属語v＋付属語v」）もある。例えば、「降り始める」は寺村の分類によれば「自立語V＋付属語v」になるが、単純動詞「始める」が「開始」の意味を保っているため、本稿では

タイプ①に分類する。

以上を踏まえると、複合動詞の前項動詞または後項動詞の意味変化の度合いは、タイプ①→タイプ②→タイプ③→タイプ④→タイプ⑤の順に大きくなる。すなわち学習者にとっては、タイプ①→タイプ②→タイプ③→タイプ④→タイプ⑤の順で習得困難度が増すと考えられる。本調査では、調査課題①を明らかにするためまず次のような仮説を立て、調査を実施し検証を行うことにした。

【仮説】複合動詞の前項と後項について各々の意味変化の度合いが大きければ大きいほど学習者の習得はそれに応じて難しくなる。

2.2 調査内容および手順

(1) 調査対象者

中国の北部の大学で日本語を専攻している上級レベルの学習者30名である。全員日本留学の経験はない。また、日本語能力試験N1に合格している。

(2) 調査内容

調査内容は大きくフェイスシート、文産出テスト、テスト終了後のフォローアップ調査という3つに分けられる。

フェイスシートには「複合動詞とは何か、知っていますか。知っている複合動詞を自由に挙げてください」という項目も設け、学習者がどのような複合動詞を自身は知っていると認識しているかを考察した。文産出テストでは、学習者に30語の複合動詞を提示し、それらの複合動詞を用いた短文を作らせ、学習者が複合動詞を使って実際にどのような文を産出するか考察した。

(3) テストで使用した複合動詞

村上春樹の小説『風の歌を聴け』から取り出した複合動詞、書き言葉のデータベース『NTTデータベースシリーズ日本語の語彙特性』（天野・近藤2000）での使用頻度、本稿における複合動詞の5つの意味分類をもとに総合的にリストアップした（表2）。

表2 テストで使用した複合動詞（計30語）

タイプ①	持ち続ける、やり直す、書き続ける、受け取る、振り返る、生み出す
タイプ②	売り出す、思い出す、言い出す、流れ出す、向い合う、重なり合う
タイプ③	結び付く、取り付ける、成り立つ、盛り上がる、取り巻く、語りかける
タイプ④	落ち込む、追い込む、乗り込む、突っ込む、入り込む、詰め込む
タイプ⑤	打ち切る、落ち着く、取り成す、出し抜く、当て付ける、仕付ける

テストで使用した合計30語の複合動詞に関して、前項および後項となる単純動詞は学習者にとってすでに学習したことがある既習語であることは確認済である。

3 調査結果の分析と考察

文産出テストを実施する前に解答してもらった「複合動詞とは何か、知っていますか。知っている複合動詞を自由に挙げてください」という項目で、学習者は合計172語（異なり語数は91語）の複合動詞を挙げた。上位5位は表3の通りである。学習者が挙げた複合動詞の中には、「引き渡し」、「問い合わせ」のような名詞化したもの、「間に合う」のような「動詞+動詞」ではないもの、「*追い押す」と「*立ち下げる」といった前項動詞と後項動詞の組み合わせが不可能なものもあった。

表3 知っている与自己判断した複合動詞上位5位

第1位	見直す (10)
第2位	立ち並ぶ (8)
第3位	受け取る (6)
第4位	書き直す (5)、乗り込む (5)、話し合う (5)
第5位	追いかける (4)、考え出す (4)、考え直す (4)、付き合う (4)、取り出す (4)、引き受ける (4)、読み切る (4)

本稿における複合動詞の意味分類に基づいて、上位5位に挙げた複合動詞を見てみると、第1位の「見直す」はタイプ①、第2位の「立ち並ぶ」はタイプ

①、第3位の「受け取る」もタイプ①である。また、第4位の「書き直す」はタイプ①、「乗り込む」はタイプ④、「話し合う」はタイプ②、第5位の「追いかける」はタイプ③、「考え出す」はタイプ②、「考え直す」はタイプ①、「付き合う」はタイプ③、「取り出す」はタイプ①、「引き受ける」はタイプ③、「読み切る」はタイプ②である。上位5位のほとんどがタイプ①とタイプ②であった。

3.1 文産出テストの結果と分析

本稿における複合動詞の5つの意味分類に基づく、複合動詞30語を学習者に提示し、短文を作るように求めた結果、取り上げた30語の複合動詞の正答率は次ページの図1のとおりであった。

図1から学習者の文産出テストの結果を全体的に考察すると、文産出テストの平均正答率は63.0%であった。このことは、全体的に見ると学習者がこれらの複合動詞の習得において、運用の面、特に複合動詞を使って文を産出する面では、それほど高くないことが窺える。

文産出テストでの複合動詞30語の各意味分類の平均正答率は図2のとおりである。

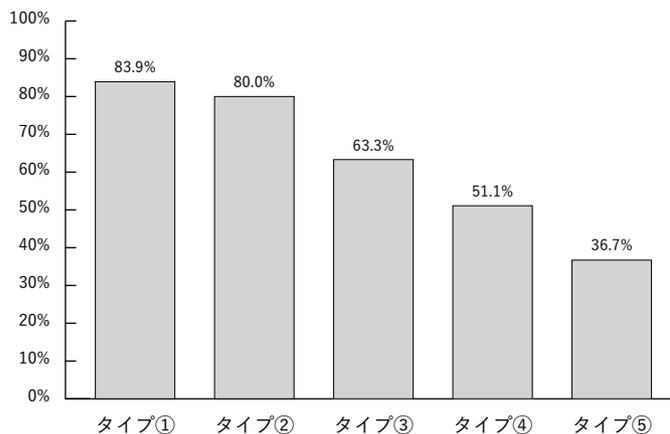


図2 文産出テストにおける各意味分類の平均正答率

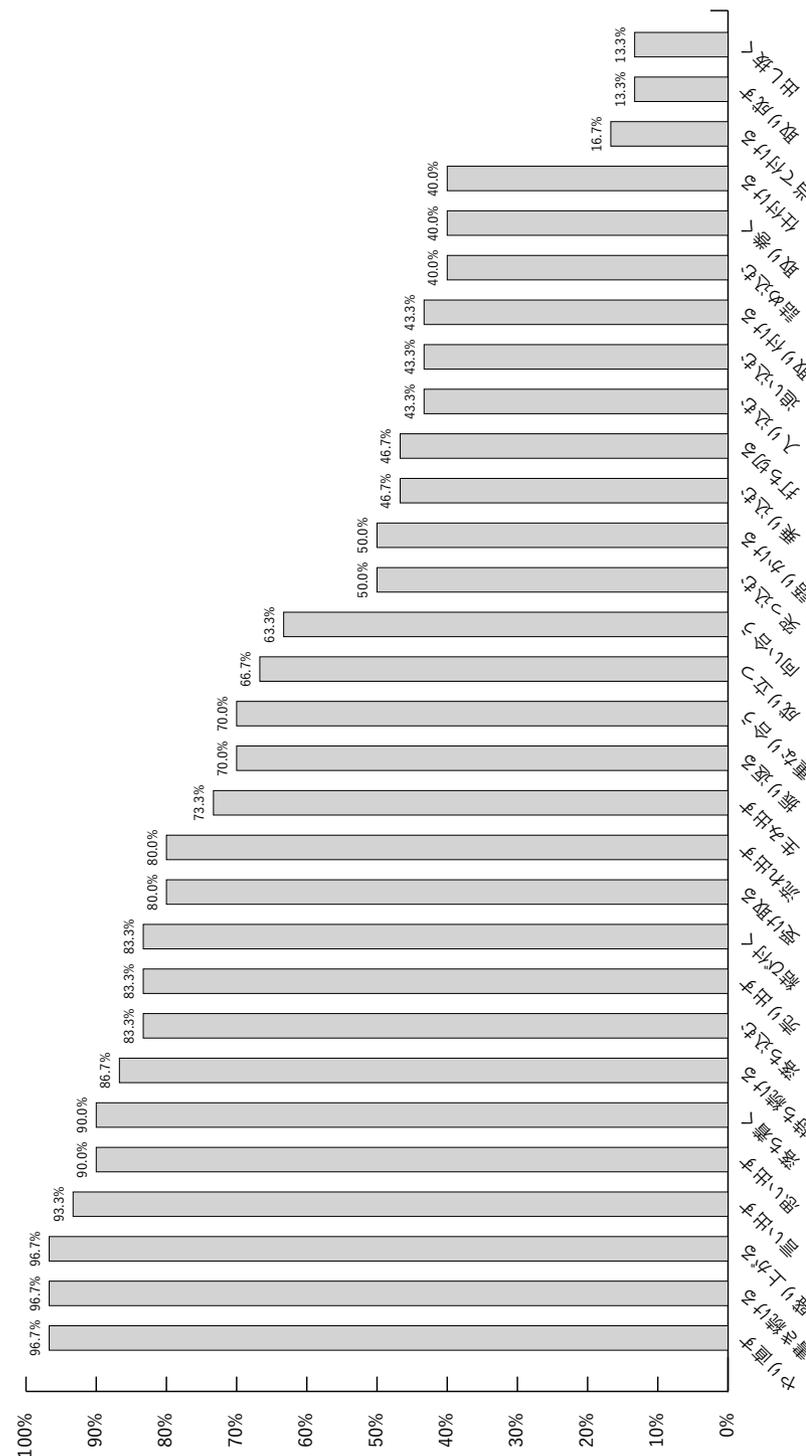


図1 文産出テストにおける30語の正答率

文産出テストにおける複合動詞の各意味分類の平均正答率は、タイプ①が最も高く、83.9%であり、その次にタイプ②で80.0%であった。平均正答率が最も低いのは意味分類のタイプ⑤で、36.7%であった。図2から分かるように、平均正答率は高い順からタイプ①、タイプ②、タイプ③、タイプ④、タイプ⑤となり、すなわち、複合動詞の前項と後項の意味変化の度合いが大きいほど学習者の習得が更に難しいことが明らかになり、仮説が検証された。

3.2 文産出テストに見られる誤用

学習者が産出した短文についてフォローアップ調査、誤用分析を行った結果、主に次のような誤用が見られた。

i. 前項動詞あるいは後項動詞のみの意味で捉える

(1) パーティーの誘いを受け取った方は今席スーツを着て出席してください。

(2) 彼は不意識のうちに危険に落ち込んだ。

(3) 今のよい調子を乗り込んで最後までがんばりましょう。

「受け取る」を「受ける」の意味で捉えたほか、「落ち込む」、「乗り込む」では、それぞれ「引きこまれる感じのする状態に至る」、「勢いにまかせてすすむ」の意味の「落ちる」、「乗る」で解釈していた。

ii. 同じ前項動詞あるいは後項動詞を含む他の複合動詞との混同

(4) この店は非常に人気がある。今日のパンを全部売り出した
→売り切れた

(5) 財布をすりにすられたとたんその人を追い込んでいました
→追いかける

「売り出す」を「賣光 mai guang → 売り切れる」、「追い込む」を「追上 zhui shang → 追いかける」と混同する傾向も見られる。

iii. 前項動詞、後項動詞の漢字のみを組み合わせる

(6) 10年おける努力によって彼はやっと自分の会社を成り立ちました。

(7) あの二人は大喧嘩をして友情も怒りで打ち切られた。

(8) 雨で道がどろどろになって足が泥から出し抜くことさえ難しくなる。

「成り立つ」では、漢字をとり「成立 cheng li → 創立する」と捉え、「打ち切る」の場合も前項と後項の漢字をとり「打断 da duan → 断ち切る」と捉えている。「出し抜く」は「抜き出す」の意味を持っている「拔出 ba chu」と理解している。

iv. その他

(9) 彼はまっすぐな人なので取り巻くはきらいです。

(10) 彼女は自分の美しさに入り込んでいて人に嫌われた。

(11) この小説に詰め込んでもう遊びなどはしない。

(12) 一年間の努力によってやっと大学の合格を取り成しました。

(13) 自分の仕事をちゃんと仕付けることについても用心が必要です。

(9)の「取り巻く」は「弯曲 wan qu → 婉曲」の意味で、(10)の「入り込む」と(11)「詰め込む」は「～夢中になる、はまり込む(→ 沉浸 chen jin)」の意味で捉えている。(12)の「取り成す」の場合は、「～を遂げる」の意味で理解し、(13)の「仕付ける」の場合、「仕事を完成する(→ 做好 zuo hao)」の「完成」の意で理解していた。

4 おわりに

本稿では、日本語教育の観点から複合動詞の5つの新しい分類を提案し、その枠組みに基づいて、学習者の習得しにくい複合動詞はどのようなもので、どのような誤用が見られるかについて考察を行った。今後の課題として、研究方法およびデータの質的量的な再検討を行うとともに、学習者の以上のような習得状況に基づき、日本語教育現場においてどのように応用したらよいか、誤用の原因は何かについても更なる考察をしていきたい。

〈神戸大学大学院生〉

参考文献

- 天野成昭・近藤公久（編著）（2000）『NTT データベースシリーズ日本語の語彙特性』第7巻. 三省堂
- 李暉洙（1997）「中間的複合動詞「きる」の意味用法の記述—本動詞「切る」と前項動詞「きる」、後項動詞「一切る」と関連づけて」『世界の日本語教育』70, pp.219–232.
- 石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
- 何志明（2010）『現代日本語における複合動詞の組み合わせ—日本語教育の視点から』笠間書院
- 国立国語研究所（1984）『語彙の研究と教育（上）』（日本語教育指導参考書12）大蔵省印刷局
- 陳曠（2006）「中国人学習者における複合動詞の習得に関する一考察—学習者の作文産出に基づいて」『ククロス—国際コミュニケーション論集』3, pp.1–15.
- 寺田裕子（2001）「日本語の二類の複合動詞の習得」『日本語教育』109, pp.20–29.
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 野村雅昭・石井正彦（1987）『複合動詞資料集』国立国語研究所報告書
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 白以然（2007）「韓国語母語話者の複合動詞「～出す」の習得—日本語母語話者と意味領域の比較を中心に」『世界の日本語教育』17, pp.79–91.
- 松田文子（2000）「日本語学習者による語彙習得」『世界の日本語教育』10, pp.73–89.
- 松田文子（2002）「日本語学習者による複合動詞「～こむ」の習得」『世界の日本語教育』12, pp.43–59.
- 松田文子（2004）『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して』ひつじ書房
- 三宅知宏（2005）「現代日本語における文法化—内容語と機能語の連続性をめぐって」『日本語の研究』1(3), pp.61–76.
- 森田良行（1994）「動詞の複合における意味構成」『動詞の意味論的文法研究』pp.281–297. 明治書院
- 『広辞苑【第六版】』岩波書店, 2008
- 『新版日本語教育事典』大修館, 2005
- 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』国際交流基金・日本国際教育支援協, 2006
- 国立国語研究所『複合動詞レキシコン』<http://vlexicon.ninjal.ac.jp>